

地方行政の現場から

光多 長温*

はじめに

地方創生が言われるが、中々効果が出ていない。現在の地方行財政制度の中で、各地域が現行行財政制度の下でそれぞれ何らの努力を行わなければ、各地方が比例級数的に低下していくしかない。特に、中山間地域においては顕著である。

兵庫県養父市は典型的な中山間地域で、厳しい経済環境にある。「養父」の名前も読み方さえ分からない方が多いという中で、広瀬前市長は、町役場の一職員から合併後の市の長となり、地域創生にアクティブに取り組んでこられた。消滅都市が議論される中、地域の生き残りをかけて地域にとって足かせとなる岩盤規制の変革を訴え、総理を始め、時の政権中枢に対しても地域の立場に立った意見を堂々と述べて数々の成果をあげてきた。この間の氏を動かしたものは地域への想いであった。

2024年の市長選挙で5選を阻止されたが、それまでの4期16年の実績は多大なものがある。そこで、地方行政、地方再生に詳しいメンバーで広瀬前市長をお招きして、地方の現場の実態を率直にお聞きすることとした。財団から次の質問を出して、これに沿って広瀬氏からお話いただき議論を行った。

【議論項目】

1. 合併の効果

ほぼ、同規模の4つの町が対等合併した市行政として、合併の効果、市としてのまとまりをどう考えられるか。また、合併の効果をどう考えられるか。

2. 職員の資質向上

行政幹部は、旧町役場の出身で占められるが、職員の資質についてどう考えられたか。また、職員の能力向上にはどのようなことを考えられてきたか。副市長人選の考えも併せて伺いたい。

3. 地方行財政改革

*公益財団法人 都市化研究公室 理事長

PFI方式によるプロジェクト、国家戦略特区事業の推進等で全国的にも注目される市となったが、この間の意識を伺いたい。また、市民・議会の関心・理解はどうであったか。

4. 地方議会

地方の議会について率直に伺いたい。議会の機能（市行政のチェックなのか、行政の推進なのか）、議会での質疑、反問権の行使の有無及現実の効果等について率直に伺いたい。

5. 住民参加

住民参加の現実はどうか。住民の声をどういう形で吸い上げるか、また、どのようにしてそれを住民参加という形で具現化していくべきと考えられたか。一部の声高の住民と声なき住民のバランスをどう考えられるか。

6. 地方行財政の現場

町行政の職員、市行政の幹部、合併後の市の首長として長いこと地方行政に携わって来られたが、その中で現在の地方行財政のあり方（行政制度、財政制度、地方創生等）についてご意見を伺いたい。また、地方分権の実態をどう考えられるか。地方財政の現状は？自由裁量的な財源はどの程度か。いかなる財源が望ましいか。

7. 地方選挙

地方議会議員のなり手がいないと言われ、また、首長、議員選挙において無投票当選が多く見られるが、これについてどう考えられるか。また、マニフェストを掲げて選挙に臨まれたが、これについてのお考えを伺いたい。マニフェストの数値目標の設定の仕方、市民の理解度、プラスマイナス等についても伺いたい。

座談会は、7月15日に開催し、出席者は次のとおり。

前養父市長 広瀬栄

佐々木信夫（座長）

大川信行

光多長温

【広瀬前養父市長経歴】

広瀬栄、1947年〈昭和22年〉-）は、日本の政治家。兵庫県養父市長（4期：2008年11月1日 - 2024年10月31日）を務めた。

養父市八鹿町出身。兵庫県立八鹿高等学校卒業。1971年、鳥取大学農学部農業工学科卒業。同年、建設会社に勤務。1976年、八鹿町役場に転職。商工労政課長、企画商工課長、建設課長などを務める。

2004年：市町村合併により成立した養父市都市整備部長。2005年：助役兼都市整備部長。2007年：副市長。2008年：副市長を退任。同年10月に行われた養父市長選挙に立候補し、初当選

した。

2012年無投票により再選。2016年元測量会社社長の大林賢一を破り3期目の当選。2020年元副市長と元市議の2人を破って4期目の当選。2024年、5期目を目指したが、8年ぶりに市長選挙に立候補した大林賢一に敗れ、落選した。

2012年度の重点施策として、「北近畿豊岡自動車道開通を契機とした交流の拡大と地域の活性化」を掲げた。2014年3月、地域を絞って規制緩和する国家戦略特区の第1弾として、特定の分野に絞って規制緩和を進めるとして「養父市」が選定された。